

令和 4 年度  
事 業 報 告 書

(令和 4 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日まで)

東京都豊島区高松三丁目 6 番 7 号

学校法人 豊南学園

## < I > 法人の概要

### (1) 建学の理念・精神

本学校法人豊南学園は、秋田県出身の西宮藤朝によって昭和 17 年に財団法人豊南学園として設立、旧実業学校令による豊南商業学校を設置したことに始まり、以来 80 年にわたり「自主独立の建学の精神を発揚し社会に寄与できる人材の育成」を目標としてきた教育機関であります。

西宮藤朝は、大正 3 年早稲田大学文学部英文科を卒業後、早稲田文学社に入社し、島村抱月先生より 5 名の若手編集同人のひとりとして委嘱され、主に詩歌部門を担当しました。同 13 年より早稲田大学、同 14 年より立正大学講師として教壇に立ち、哲学・英語・フランス語の講座を担当し、その間に、詩歌、芸術、倫理、哲学等に関する数々の論文・著書を出版しました。

その頃から、少年並びに青年教育の在り方についての抱負と、国民性の陶冶は大学以前において行われるべきことを主張しておりました。この『青少年に対する深い教育愛』という一連の情熱は、フランスの哲学者・スピノザの教育論に根ざしています。すなわち「人間の持つ合理性の能力が、人間の生物的法則の活動を調整する。この合理性の能力を養うところに教育の意義がある」というものであり、

これが、創立時に作成した教育方針、

- 一. 『責任感の強い自主独立の精神を涵養する』
- 二. 『明朗闊達な民主的人物を作ろうとする』
- 三. 『自由放逸の自然性を合理的・道徳的に向上させる』

に示されています。

これらを踏まえ、個々人の持てる勝れた個性の伸長を図る事の重要性を深慮され、「自主独立」の精神の涵養を校是としました。即ち「自分の足で歩ける人」「自分の頭で考えられる人になれ」といった、一人一人の人造りの肝要を説き、建学の精神としました。

また、昭和 29 年には、「次代を担う若い女性たちを、良き社会人、良き家庭人に育てる」ことを目的にした女子部を開設し、教育活動の本格的実践を目指しました。

この精神、西宮藤朝の遺志を受け継ぎ、「人間形成」を一步進める形で、第 3 代理事長・武田昭二が、昭和 58 年に信州豊南女子短期大学（現：信州豊南短期大学）を創設しました。初代学長・安津素彦先生を迎えて、建学の精神の涵養につとめながら高い知性と豊かな情操を培い郷土の文化を理解し、多様化する国際化社会にも対応の出来る勝れた人間像の育成を期してきました。

社会的・国際的混乱の続く現代においてこそ、このような建学の精神に沿い、学生・生徒そして保護者の信託に応える取り組みが求められているものと考えております。

### (2) 沿革

昭和 17 年に西宮藤朝が東京都豊島区に財団法人豊南学園を創立し、旧実業学校令による豊南商業学校を設立しました。

その後、昭和 26 年学校法人に組織変更し、幼稚園、高等学校を設置、昭和 58 年学園創立 40 周年を機に創立者が生前から強い情熱を抱懐されていた大学設立の夢を信州豊南女子短期大学設置とい

うかたちで結実するに至りました。学園創立当初からの「自主独立の建学の精神を発揚し、社会に寄与できる人間の育成」を教育理念とし、建学の精神である「自主独立」を具現化すべく、「人間教育」を教学の基本に置き教育にあたってきました。単に専門的学芸の教授研究、真理探究の場を提供するにとどまらず、情操、体育の面を含めた総合的な「人間形成」を教学の基本とし、地域社会の発展に尽力してきました。

昭和 17 年	財団法人豊南学園創立、旧実業学校令による豊南商業学校設置
昭和 19 年	豊南工業高校併置
昭和 23 年	豊南商業学校・豊南工業学校を豊南高等学校（普通課程）と改組改称
昭和 26 年	財団法人豊南学園を学校法人豊南学園に組織変更
昭和 29 年	豊南高等学校女子部新設
昭和 30 年	豊南幼稚園併置
昭和 37 年	豊南高等学校に商業課程併置
昭和 54 年	長野県辰野町に豊南学園教育研修施設として「王城山荘」を開設（62 年閉鎖）
昭和 56 年	創立 40 周年記念事業の一環として「信州豊南女子短期大学」設置を文部省に申請
昭和 58 年	信州豊南女子短期大学（国文科・英語科）開学
平成 12 年	国文科・英語科を「言語コミュニケーション学科」に改組転換 信州豊南短期大学に名称変更（男女共学）
平成 16 年	豊南高等学校男女共学に移行開始
平成 19 年	豊南高等学校商業科募集停止
平成 20 年	幼児教育学科設置（言語コミュニケーション学科の定員変更）

### （3）設置学校等

信州豊南短期大学	長野県上伊那郡辰野町中山 72	学 長 上田 渡
豊南高等学校	東京都豊島区高松 3 丁目 6 番 7 号	学校長 守隨 憲道
豊南幼稚園	東京都豊島区高松 3 丁目 6 番 7 号	園 長 守隨 憲道

### （4）各学校在籍者数（各年度の 5 月 1 日現在）

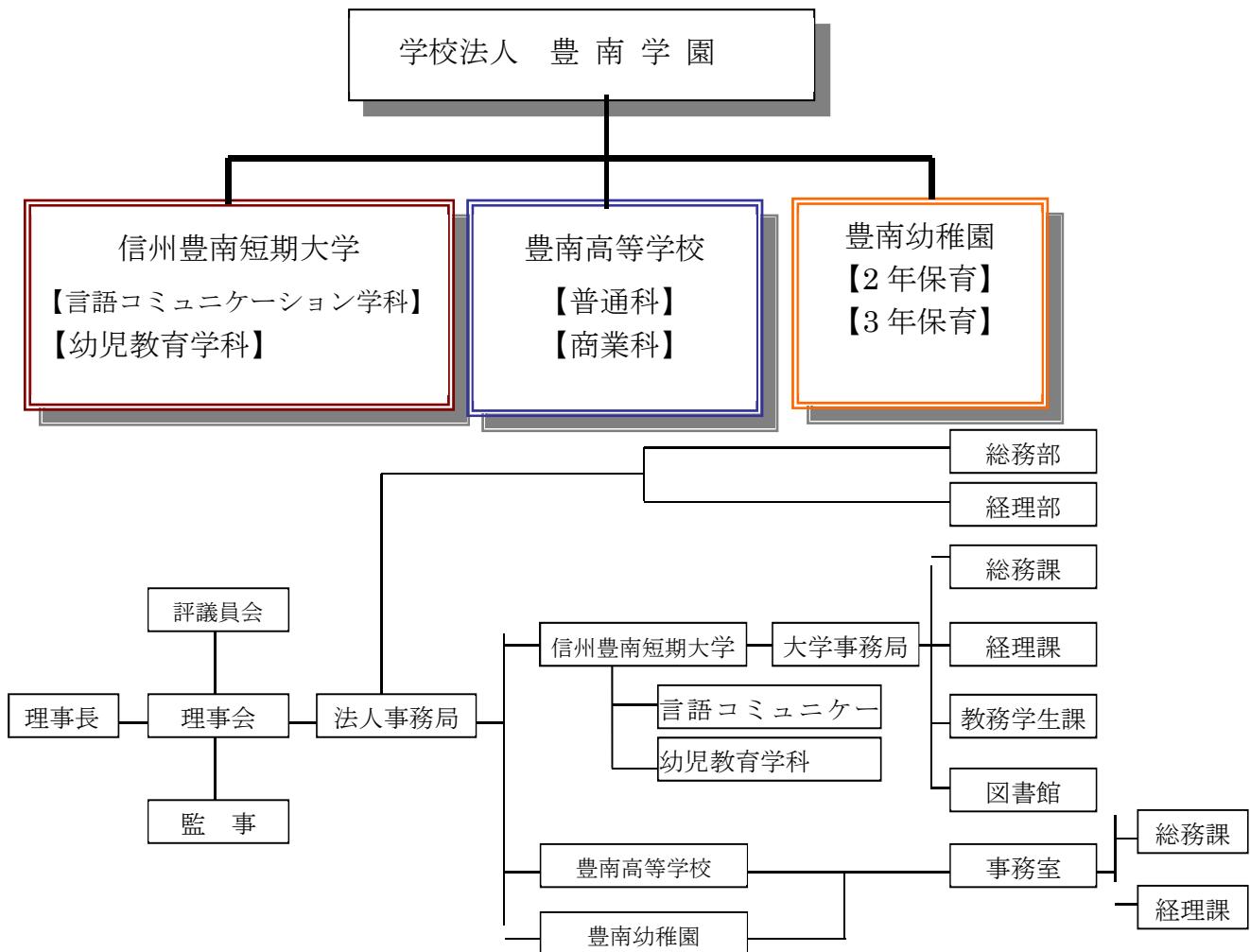
区分	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	令和 2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
短大学生数	258 名	255 名	266 名	222 名	244 名	261 名	223 名	221 名	216 名	173 名
高校生徒数	689 名	714 名	924 名	925 名	936 名	838 名	899 名	930 名	1,050 名	1,115 名
幼稚園園児数	79 名	74 名	75 名	77 名	86 名	77 名	66 名	58 名	42 名	43 名
計	1,026 名	1,043 名	1,265 名	1,224 名	1,266 名	1,176 名	1,188 名	1,209 名	1,308 名	1,331 名

(5) 役員（理事・監事）に関する事項

役員及び教職員に関する情報（教職員は専任のみ・兼務含む）令和5年5月1日現在

役員		本部	信州豊南 短期大学	豊南高等学校	豊南幼稚園
理事	7名	教員	0名	17名	50名
監事	2名	職員	1名	7名	11名
評議員	15名				0名

(6) 組織図



## <II>. 事業の概要

### 信州豊南短期大学

#### I 当該年度の主な事業の概要および進捗状況

##### 1. 事業の主な目的・計画

###### (1) 教育改革

- ①学習成果と3つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）の点検見直しによる教育改革を推進する。
- ②コロナウイルス感染症の状況をにらみながらICT活用による教育のさらなる充実を図り学習成果の獲得につなげて行くとともに、単位制度の実質化を図る観点から学生による授業時間以外の学習の推進を図る。
- ③GPA制度の適切な運用を図り、各学科の教育目標の達成、学習成果の獲得に向けて厳格な成績評価の実施を推進する。
- ④3つのポリシーの見直しや各学科によるナンバリング等の点検を通じ、カリキュラムの見直しを実施し、ひとつひとつの授業科目の位置づけを明確にするとともに当該情報を全教員で共有し教育にあたる。
- ⑤教育効果および学習成果の獲得状況、就職状況、卒業後の就業状況を点検・評価しながら、本学学生に必要と考えられる教育の検討を重ねていき、状況に応じカリキュラム等の見直しを行う。
- ⑥2022年度に向けて両学科共通教養科目の開講を検討する。

###### (2) 学生支援

- ①進路指導のさらなる強化を図るため、ICTを積極的に活用するための検討を実施し、年度末にはその成果を点検していく。
- ②GPAを用いた学生指導により、学期ごとに学生相談及び指導期間を設け、入学者を一人も取りこぼさず卒業までつなげて行くための学生支援を行い、年度末に点検評価を実施する。
- ③給付型を含む奨学金制度等及び令和4年度から開始する学費支援サポート等を活用し、経済的困窮者の支援のさらなる充実を図る。
- ④コロナウイルス感染症により多くの制限を受け、十分な課外活動、地域での活動ができないはないが、その中でも可能な活動等を探り、授業以外での学生生活の充実を図る。
- ⑤学生指導に対してもICTの活用を一層推進し、退学者等の減少につなげていく。

###### (3) 研究推進

- ①教員の教育能力の増進を目的に積極的にFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動に取り組む
- ②研究倫理及び研究費不正使用防止のための研修会の充実を図る。

###### (4) 運営管理（学生募集含む）および設備投資

- ①全学的な教学マネジメント体制の点検、再構築
  - ・3つのポリシーに基づく学習目標の具現化

- ・授業科目・教育課程の編成
- ・学習成果の可視化
- ・上記3項目の実現のためにFD（ファカルティ・ディベロップメント）SD（スタッフ・ディベロップメント）のさらなる充実推進を図る
- ・教育情報の公表のさらなる充実
- ・自己点検評価の推進及び認証評価機関による評価に向けた取り組みを行う。
- ・散在している情報を一つにまとめ、多面的活用を図る。

- ②大学入試改革の状況及び前年度の入試状況を点検し、入試制度等の見直しを図るとともにICTを活用したオンラインキャンパスやSNS等を活用した広報の充実を図り、幼児教育学科の募集状況の回復と言語コミュニケーション学科の入学者増を図る。
- ③公開講座等の開講を検討。参加者に科目等履修生制度、社会人入学制度の周知を図りこれらの制度を利用した入学者の回復を図る。
- ④校舎及び施設設備（第2コンピュータ室の入れ替えを含む）の補修・改修を実施する。

## 2、進捗状況

前年度末に翌年度の事業計画を上記のように計画し、進めていくことにしていましたが、コロナウイルス感染症への対応が急務となり、計画通りに進まないことが多くなってしまった。対面による学習機会の確保と感染リスクを避けるためのオンライン授業の実施、実習の受け入れ問題、企業等の就活セミナーの延期や中止、行事や各種催し物の中止など次々に現れる新たなもの、計画時にはそこまで考えてはいないことへの対応に追われた。当初の計画に対する進捗状況は以下のとおりとなっている。

### （1）教育改革

- ①学習成果と3つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）の点検見直しによる教育改革を推進については、令和4年10月以降に言語コミュニケーション学科及び幼児教育学科の審議を経て、教務委員会で取りまとめを行うなど令和5年度に向けて点検見直しを行った。基本的には変更がないが、一部字句の修正を行った。学習成果と3つのポリシーを軸に、教育内容等の見直しに向けた協議を行った。
- ②単位制度の実質化の観点からの学生による授業時間以外の準備のための学習の推進については、入学直後のガイダンス及び後期ガイダンスにおける説明強化と、各授業科目の開始時にシラバスの読み合わせ確認を実施した。
- ③GPA制度の適切な運用、各学科の教育目標の達成、学習成果の獲得に向けて厳格な成績評価については、テストやレポート等の返却の実施を導入したこともあり、試験2週間前に評価基準等の説明を授業の中での実施を徹底した。シラバスに示した評価基準に従い評価を実施した。
- ④3つのポリシー、ナンバリング等の点検によるカリキュラムの見直し、及び授業科目の位置づけの明確化については、前年度の10月から各学科で行い、学科会において全教員で共有した。また令和4年度開始前に非常勤教員との会議を開催し、そこでも共有を図って令和4年度に臨んだ。同様に令和5年度に向けてレ話4年10月から見直し、点検のための話し合いを実施、上記の流れで令和5年度に臨む計画である。
- ⑤教育効果および学習成果の獲得状況、就職状況、卒業後の就業状況を点検・評価によるカリキュラム等の見直しについては、現在も協議中である。

⑥両学科共通教養科目開講の検討についても現在協議中であり、れいわ5年度の実施には至っていない。

## (2) 学生支援

①進路指導のさらなる強化を図るため、ICT を積極的に活用するための検討の実施しについては、令和4年度に ICT を用いたいくつかの方法を SD 研修として学んだ。一部これらを活かした取り組みも行われた。今後も引き続き研修会等を実施し、さらなる活用を図りたいと考えている。

②G P Aを用いた学生指導、学生支援の実施については、基準や期間を設け行うことにしては、学科会議を通じ指導の必要な、又は支援の必要な学生を確認し、対応をはかっている。ただし十分とは言えず、タイが悪者も減少していない状況もあることから引き続き情報共有と他部署との連携に取り組んでいる。

③給付型を含む奨学金制度等及び令和4年度から開始する学費支援サポート等を活用し、経済的困窮者の支援のさらなる充実を図る計画については、計画通りに実行することができた。ただし、各種の制度の理解が学生にもまたその保護者（保証人）にも十分に理解されているとはいはず、さらなる情報提供が必要である。

④コロナウイルス感染症による制限のある中での学生生活の充実については、学園祭において限定公開を行うなど少しずつではあるが前進させることができた。以前の状況には程遠いが令和5年5月以降に緩和されることもあり、留学制度やその他の地域での活動を含め今後の実施にむけての準備期間となった。

⑤学生指導への ICT の活用の一層の推進しについては、教職員のレベルアップが必須であり、そのために SD 研修等実施したが、一部効果はあるものの限定的であり、羅なる研修の充実を図りたいと考えている。

## (3) 研究推進

①FD（ファカルティ・ディベロップメント）活動への積極的に取り組む計画については、外部講師を招いての研修や授業参観などに取り組んできた。また本学の SD 研修は教職員すべてを対象として行っており、こちらにおいて教室にある設備の使用方法や電子黒板の使い方等も行った。さらに研修の強化を図りたいと考えている。

②研究倫理及び研究費不正使用防止のための研修会の充実については、応募者が少ないこともあるが、教授会終了後に年に4回研究費の不正使用と、研究倫理に関する研修会を実施している。

## (4) 運営管理（学生募集含む）および設備投資

①総務会を中心に教学面での点検評価に基づく改善を図ってきた。大きな改善は見られないが、小さなところから一つづつ行っていた。FD（ファカルティ・ディベロップメント）SD（スタッフ・ディベロップメント）の研修会は、これまで全員が集まれるような時間を見つけて行っていたが、このほうほうでは実施が制限されることもあり、令和4年度は同じことを何回か繰り返し行うこととし、授業の空き時間に少人数であっても行ってきた。このことを通じ意識の変化が多少ともつながったと考えている。さらなる充実を図りたい。

自己点検評価の推進と認証評価に向けての準備もあり、計画が不十分に終わってしまった。特に散在している情報を一つにまとめることは重要な作業であり、部署ごとに持っている学生の

情報も一つにまとめ、効率よくまた適格に使えるようにしていきたいと考えているが、この点に十分な取り組みができなかつた点は残念である。

- ②入試については結果がすべてであり、令和4年度の募集活動がうまく機能しなかつた。ただし広報活動や募集そのものだけではなく、教育活動全体の見直しが必要と考える。  
特に幼稚教育学科の佐相精をはかり、かつ信州豊南短期大学を希望する学生を増やすための点検評価を行い、対策を講じていきたいと考えている。
- ③公開講座等についてはコロナ禍でもあったができるところから行った。社会人募集については幼稚教育学科において令和4年度5人の入学者があった。令和5年度はさらなる期待を持って望んだが3名に減少した。岡谷技術専門校との提携による募集のため、制約もあり募集活動が十分ではなかつたかもしれない。次年度に活かしていきたいと考えている。
- ④コンピュータ室の更新を検討したが、マイナーチェンジを図ることとした。令和5年度にメモリーの増設とハードディスクをSSDに変更するなどして、使い勝手の向上を図ることにした。

## II 教育研究の概要

### (1) 教育研究上の基本となる組織に関する情報

大学等名	学科名	備考
信州豊南短期大学	言語コミュニケーション学科	
	幼稚教育学科	

### (2) 教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報

大学等名	学科名	教員数
信州豊南短期大学	言語コミュニケーション学科	9名
	幼稚教育学科	8名
【教員の保有学位または職務上の実績等】		
博士号 1名、修士 16名 令和4年度研究紀要第40号発刊 同研究紀要論文執筆者 2名		

### (3) 学生に関する情報

信州豊南短期大学	【入学に関する基本的な方針】					
	学科名	入学者数	収容定員	在学者数	前年3月卒業者数	進学者数
	言語コミュニケーション学科	52	200	110	60	1
	幼稚教育学科	23	200	63	43	0

【卒業後の進路・就職状況等】

・言語コミュニケーション学科

令和5年3月末の就職率は97%。

主な就職先は長野県職員、辰野町職員、アルプス中央信用金庫、ツルヤ、トヨタ車体蓼科山荘、医学生物研究所、二光、サンビジョン、その他。

・幼児教育学科

令和5年3月末の就職率は100%。

主な就職先は、上田市職員（保育士）、須坂市職員（保育士）、諏訪市職員（保育士）、駒ヶ根市職員（保育士）、茅野市職員（保育士）、辰野町職員（保育士）、箕輪町職員（保育士）、信学会幼稚園・保育園、聖ヨゼフ幼稚園、よしだ幼稚園、四賀アイアイ、その他。

(4) 教育課程に関する情報

言語コミュニケーション学科教育課程

令和5年5月1日現在

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位		教員配置			備考
		講義	演習	実習	必修	選択必修	選択	専任	兼任担	
教養科目	日本語表現 I		○		2			○		1単位 選択必修
	日本語表現 II		○		2			○		
	日本語表現III(就職対策)		○		1			○		
	スタディスキル		○		1			○		
	コミュニケーションスキル I		○			1				
	コミュニケーションスキル II		○			1				
	Basic English I		○			2		○		
	Basic English II		○			2		○		
	情報基礎演習		○		1			○		
	Excel演習		○			1		○		
ゼミナール	情報と社会		○			1		○		
	キャリアデザイン		○			1				
	コミュニケーションゼミ		○		1			○		
専門プログラム	課題探究ゼミ		○		1			○		
	専門ゼミ		○		2			○		
	心理学の基礎 I	○					2		○	
	心理学の基礎 II	○					2		○	
	発達心理学 I	○					2		○	
	発達心理学 II	○					2		○	
	臨床心理学 I	○					2		○	
	臨床心理学 II	○					2		○	
	医療事務 I	○				2				
	医療事務 II	○				2				
	医療事務 III	○				2				
	手話 I		○			1				
	手話 II		○			1				
	生命と倫理	○					2		○	
	社会福祉論	○					2		○	
	児童福祉論	○					2		○	
	健康スポーツ			○			1			
	生涯スポーツ I			○			1			
	生涯スポーツ II			○			1			

## 言語コミュニケーション学科教育課程

令和5年5月1日現在

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任	
専門プログラム	人と文学		○					1	○		
	現代思想	○						2	○		
	古典文学の流れ	○						2		○	
	近代文学の流れ	○						2	○		
	源氏物語	○						2		○	
	幻想小説	○						2	○		
	短編小説を読む	○						2	○		
	書道 I		○					1	○		
	書道 II		○					1	○		
	ペン習字		○					1	○		
	朗読演習 I		○					1	○		
	朗読演習 II		○					1	○		
	児童文学論	○						2		○	
	詩・短歌を作る		○					1	○		
	映画の表現と方法	○						2	○		
	サブカルチャー研究 I	○						2		○	
	サブカルチャー研究 II	○						2		○	
	マンガ研究	○						2		○	
	アニメ論	○						2		○	
	人間と言葉		○					1	○		
	英語学概論	○						4	○		
	観光英語		○					1		○	
	English Workshop I		○					1		○	
	English Workshop II		○					1		○	
	英語で話そう(Oral English I)		○					1		○	
	Oral English II		○					1		○	
	Oral English III		○					1		○	
	Oral English IV		○					1		○	
	Reading I		○					1	○		
	Reading II		○					1	○		
	英語発音法	○						2		○	
	TOEIC・英検対策 I		○					1	○		
	TOEIC・英検対策 II		○					1	○		
	TOEIC・英検対策 III		○					1	○		

## 言語コミュニケーション学科教育課程

令和5年5月1日現在

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任	
専門プログラム	TOEIC・英検対策IV		○					1	○		認定単位
	異文化コミュニケーション(異文化理解)	○						2	○		
	ITパスポート演習 I		○					1	○		
	ITパスポート演習 II		○					1	○		
	データベース演習		○					1	○		
	コンピュータグラフィック		○					1	○		
	Webデザイン検定対策 I		○					1	○		
	Webデザイン検定対策 II		○					1	○		
	地球環境論	○						2		○	
	環境問題演習		○					1		○	
	自然体験活動		○					1		○	
	伝統文化演習		○					1		○	
	ビジネス基礎演習 I (ビジネスマナー)		○					1		○	
	ビジネス基礎演習 II (実務)		○					1		○	
	公務員対策 I		○					1		○	
	公務員対策 II		○					1		○	
	公務員対策 III		○					1		○	
	SPI 対策 I		○					1		○	
	SPI 対策 II		○					1		○	
	漢字検定演習 I							2			
	漢字検定演習 II							2			
	日本語検定演習 I							2			
	日本語検定演習 II							2			
	TOEIC演習 I							2			
	TOEIC演習 II							2			
	TOEIC演習 III							2			
	英語検定演習 I							2			
	英語検定演習 II							2			

## 図書館司書養成課程

令和5年5月1日現在

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任	
図書館司書資格	生涯学習概論	○			2			○			
	図書館概論	○			2			○			
	図書館制度・経営論	○			2			○			
	図書館情報技術論	○			2			○			
	図書館サービス概論	○			2			○			
	情報サービス概論	○			2			○			
	児童サービス論	○			2					○	
	情報サービス演習 I		○		1			○			
	情報サービス演習 II		○		1			○			
	図書館情報資源概論	○			2					○	
	情報資源組織論	○			2			○			
	情報資源組織演習 I		○		1			○			
	情報資源組織演習 II		○		1			○			
	図書館サービス特論	○				1				○	
	図書館情報資源特論	○				1				○	
	図書館総合演習		○			1		○			
	図書館実習			○		1		○			

## 学校司書養成課程

令和5年5月1日現在

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任	
学校司書	学校図書館概論	○			2			○			
	図書館情報技術論	○			2			○			
	図書館情報資源概論	○			2					○	
	情報資源組織論	○			2			○			
	情報資源組織演習 I		○		1			○			
	情報資源組織演習 II		○		1			○			
	学校図書館サービス論	○			2					○	
	情報サービス論	○			2			○			
	情報サービス演習 II		○		1			○			
	情報サービス演習 I		○		1			○			
	学校教育概論	○			2				○		
	学習指導と学校図書館	○			2					○	
	読書と豊かな人間性	○			2			○			

## 幼児教育学科教育課程

令5年5月1日現在

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位		教員配置			備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	
基礎科目	基礎ゼミ		○		1			○		
	課題探求ゼミ		○		1			○		
	社会人基礎力演習		○		1					○
	日本語表現演習		○		1			○		
	情報基礎演習 I		○		1					○
	情報基礎演習 II		○		1					○
	保健体育	○				2		○		
	生涯スポーツ		○		1			○		
	日本国憲法	○				2				○
	Oral English I		○		1					○
専門科目	Oral English II		○			1				○
	環境問題演習		○			1		○		
	保育者論	○			2			○		
	教育原理	○			2			○		
	保育原理	○			2			○		
	教育社会学	○					2	○		
	教育・保育の心理学	○			2			○		
	特別支援教育	○			2			○		
	教育・保育課程論	○			2			○		
	幼児と健康		○		1			○		
	幼児と人間関係		○		1			○		
	幼児と環境		○		1			○		
	幼児と言葉		○		1			○		
	幼児と表現(音楽)		○		1			○		
	幼児と表現(造形)		○		1			○		
	保育内容総論		○		1			○		
	保育内容の指導法(健康)		○		1			○		
	保育内容の指導法(人間関係)		○		1			○		
	保育内容の指導法(環境)		○		1			○		
	保育内容の指導法(言葉)		○		1			○		
	保育内容の指導法(表現・音楽)		○		2					○
	保育内容の指導法(表現・造形)		○		1			○		
	乳児保育 I	○			2			○		
	乳児保育 II		○		1			○		

## 幼児教育学科教育課程

令和5年5月1日現在

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任	
専門科目	教育方法論	○					2	○			
	子どもの理解と援助		○				1	○			
	教育相談	○					2	○			
	教育実習			○			5	○			
	教職実践演習		○				2	○			
	保育の表現技術(音楽Ⅰ)		○		1					○	
	保育の表現技術(音楽Ⅱ)		○		1					○	
	保育実践演習Ⅰ		○		1			○			
	保育実践演習Ⅱ		○		1			○			
	保育実習指導ⅠA		○				1	○			
	保育実習指導ⅠB		○				1	○			
	保育実習ⅠA(保育所)			○			2	○			
	保育実習ⅠB(施設)			○			2	○			
	保育実習指導Ⅱ		○				1	○			
	保育実習Ⅱ			○			2	○			
	保育実習指導Ⅲ		○				1	○			
	保育実習Ⅲ			○			2	○			
	保育の表現技術(音楽Ⅲ)		○				1			○	
	保育の表現技術(音楽Ⅳ)		○				1			○	
	保育技術演習(音楽遊び)		○				1			○	
	保育の表現技術(造形)		○				1	○			
	子ども文化研究		○				1			○	
	自然体験活動		○				1	○			
	子どもの保健	○					2			○	
	子どもの健康と安全		○				1			○	
	子どもの食と栄養		○				2			○	
	障害児保育Ⅰ		○		1			○			
	障害児保育Ⅱ		○		1					○	
	子ども家庭支援論	○					2	○			
	社会的養護Ⅰ	○					2	○			
	社会的養護Ⅱ		○				1			○	
	手話		○				1			○	
	子ども家庭福祉	○					2	○			
	社会福祉	○					2			○	

## 幼児教育学科教育課程

令和5年5月1日現在

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任	
	子育て支援		○				1	○			
	子ども家庭支援の心理学	○					2	○			

## (5) 学習の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報

大学等名	学科名	修業年限	必要修得単位数	科目区分ごとの修得単位数		取得可能な学位及び専攻名称
				必修	選択	
信州豊南短期大学	言語コミュニケーション学科	2年	62単位	11単位	52単位	短期大学士(言語コミュニケーション)
	幼児教育学科	2年	62単位	40単位	22単位	短期大学士(教育学)

## (6) 学習環境に関する情報

大学名等	学科	所在地	主な交通手段
	言語コミュニケーション学科		JR飯田線辰野駅下車徒步25分／同宮木駅徒步15分
長野県上伊那郡辰野町中山72			
幼児教育学科			
【キャンパスの概要】			
校地は緑に覆われた本物の自然環境にめぐまれたキャンパスとなっている。学生が通常通学に使う部分については安全面に配慮し、他の部分については、豊かな自然環境を可能な限り活かし、この環境下において教員の指導のもとに安全に自然体験活動など自然環境を有効に活用した授業・課外活動がより一層展開できるよう検討が加えられている。			
校舎についてはすべてが耐震基準を満たした構造であり、アスベストについても問題はない。			
教室の80%には電子黒板システムが設置されており、授業に活用されている。各教室へのWIFI環境の導入も急速に進み、ごく一部の教室をのぞいてWIFIの環境が整備された。WIFI環境のない教室にも有線LANは設置されている。また本学の校舎は体育館を含めすべての建物がつながっており、一度校舎内に入れば教室移動に雨風の心配はない作りになっており、体育館もそのような一角にあり使い勝手はよい。			
学内には250名を収容できる学生食堂(飛沫防止パネル設置済み)、学生ホール、学生玄関ホールなどがあり、テーブルや椅子、ベンチ、自販機等が用意され休息所として利用されている。			
また、キャンパスの中に「茶室」「礼法室」が別棟で建てられており、心の落ち着く空間となっている。主に茶道部、津軽三味線部などクラブの練習に使われているが、ゼミなどで利用することも可能となっている。			
信州豊南短期大学			

<p style="text-align: center;">信州 豊南 短期 大学</p>	<p><b>【課外活動の状況】</b></p> <p>令和4年度時点で、本学の公認クラブは、文化系11団体（前年度1団体減）、体育系3団体（前年度2団体減）の計14団体が活動している。すべての団体の顧問は専任の教職員が担当することになっており、津軽三味線部は、地域の行事、イベントに参加し地域での活躍、認知度も高いクラブであるが、残念ながらコロナウイルス感染症の影響によりこのところの活動はほとんど行われておらず学内での練習にとどまっている。</p> <p>活動資金は学生会のクラブ費で賄っており、年間の予算計画に基づき活動している。配分は毎年、学生会と各クラブ代表との間で行われる4月の新年度予算折衝を経て、5月上旬の学生会総会で決定される。学生会は執行委員長をはじめとする19名の執行委員で構成されており、事業計画・実施予算計画、学生会総会、スポーツ大会、学生会役員選挙、学園祭、バスハイク、海外研修旅行、決算等各種の行事を学生部との協議を経て、学校側と話し合いながら運営に当たっている。</p>
------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### (7) 学生納付金に関する情報

大学 名等	学科名	入学料		授業料		その他徴収費用	
		金額	納入時期	金額	納入時期	金額	納入時期
信州豊 南短期 大学	言語コミュニケーション 学科	200,000円	入学手続時	760,000円	4月、9月末	210,000円	4月、9月末
	幼児教育学科	200,000円	入学手続時	760,000円	4月、9月末	250,000円	4月、9月末

#### (8) 学生支援と奨学金に関する情報

##### 【学生支援組織】

項目	組織名	機能
就職等進路支援	進路指導委員会・キャリア支援室	入学時から進路決定に至るまでの時々の状況において進路希望調査、履歴書等の書き方、面接等、外部有識者・企業関係者・卒業生等による講演会の実施などを通じ進路指導及びその支援を行なっている。
履修支援	教務委員会・教務学生課	前期、後期のガイダンス、フレッシャーズキャンプ等における履修指導相談、ゼミ担当者による面談等を加え、学生個々の希望と一体となつた円滑な履修指導を行なう。障害者支援室とも連携を取っている。
生活支援(住居・ア ルバイト等)	学生部・総務課・教務学生課	寮、アパート等の紹介およびアルバイト等の紹介、また学生寮における生活面での指導助言を行なう。
保健・メンタルヘルス	学生相談室・医務室	両学科の心理学担当教員および医務室勤務の担当者らで構成する学生相談室において心のケアを実施。けが病気等については医務室勤務の担当者が対応している。
障害者支援	障害者支援室	学習相談や遅れの目立つ学生に対する補修も実施している。各種の障害をもつ学生の相談に応じ、合理的な配慮を行っている。

### 【信州豊南短期大学の独自奨学金制度】

種類	要件	申込方法
第1種奨学生	入学試験で選考。高校の評定平均値3.5以上の者で奨学生入試における合格者に授業料の全額または半額を免除	入学試験において出願、選考。
第2種奨学生	1年次の学業成績、人物、出席状況、大学行事への参加等を考慮し、「奨学生選考基準」により選考。	成績等により選考されることから申込は不要。
第3種奨学生	学業・人物とも優秀な学生で、かつ経済的理由により、就学が困難であると認定された者に奨学生（授業料半額相当を上限とする）を給付。	第3種奨学生願書に所得証明等の必要書類を添付して申込。 (一部は入学試験時に出願、一部は入学後必要に応じ応募)

### III 管理運営の概要

#### 【ガバナンス】

学校法人の重要な意思決定は理事会で行われている。当該年度の予算、決算、学長の任免、専任教員の任免、理事会等の招集運営、その他法人運営上重要な事項はすべて理事会で決定されている。法人（理事会）を代表する理事長は当該理事会及び評議員会等学園の重要会議においてリーダーシップを発揮し、会議の円滑な運営を行っている。

また、理事会での意思決定の前に教学側（短期大学側）と常任理事等との間で十分な協議を経ることで円滑な運営が可能となっている。

短期大学の運営は、理事会等の意向を受け学長を中心に業務の執行を行っている。学校教育法の改正に伴い、学長の権限や教授会規程その他の見直しにより、審議機関としての教授会のあり方などを教授会等で説明し、教授会等の意見を求め学長が決定することを改めて確認し、運営にあたっている。

理事会、評議員会、短期大学の運営状況については監事がその状況を監査することとしている。

#### 【自己点検評価】

平成30年3月9日付で第三者評価機関から適格認定を受けた。引き続き学校全体で自己点検評価に取り組み、よりよい短期大学運営に向けてその結果を活かしていきたいと考えており、令和5年度に認証評価を受ける計画である。

自己点検評価の結果、令和4年度は3つのポリシーの見直し、科目ごとの到達目標（学習成果）、科目間の連携についても再確認を行い、幼児教育学科においては令和3年度から一部科目的開講時期の見直しを実施。単位の実質化を図る意味でも準備学習が重要であることを踏まえ、シラバスの改訂にあたり各授業科目における授業計画ごとに準備学習の内容と目安の時間を示すことにした。また授業等を通じて身に着けるべき能力と成績評価の関係もシラバスに明示するとともに、ガイドンス等において十分に学生に周知を図ることを確認した。

また試験答案やレポート等の返却日を設け、解説を加えて学生に返却することにした。年に2回の計画を立てている。前期については日程の関係で、対面での返却は言語コミュニケーション学科のみで行われた。すべての科目ではないが、解説を加えて返却することで学生に多くの気づきをもたらす結果になっていると考えており、次の学習につながると考えている。後期は幼児教育学科の1年生は実習と重なることから対面での返却を見送ったが、それを除くすべての学年学科で返却を行った。まだまだ十分とは言えないかもしれないが、多方面から様々な試みに取り組むことで、学

生の学習成果獲得につなげていきたいと考えている。

### 【情報公開】

信州豊南短期大学のホームページにおいて以下の項目で情報公開を行っている。

#### ●教育研究上の基本的な情報

- ・学科の名称及び教育研究上の目的
- ・専任教員数、各教員が有する学位及び業績
- ・校地、校舎、施設その他の学生教育環境
- ・授業料その他大学が徴収する費用

#### ●修学上の情報等

- ・入学者に関する受け入れ方針、入学者数等
- ・授業科目、授業の方法及び年間授業計画
- ・学習の成果に係る評価及び卒業認定基準
- ・学生の修学、進路選択及び心身の健康に係る支援
- ・教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報
- ・授業評価アンケート結果

#### ●財務の情報

- ・財産目録
- ・貸借対照表
- ・資金収支計算書
- ・消費収支計算書
- ・事業報告書
- ・監事の監査報告書

### 【施設設備の整備】

令和4年度は一部トイレの改修、及び大きな教室の照明をLEDに切り替えた。

#### (4) 上記以外の特徴ある取り組みの概要

##### ①国際交流の概要（令和4年4月現在はコロナウイルス感染症の関係で休止している）

言語コミュニケーション学科ではニュージーランド・クリストチャーチのカンタベリー大学（交流協定締結時はクリストチャーチ教育大学）と平成5年5月に交流協定を締結し、平成6年2月に第1回の留学生14名が同大学に留学、令和3年4月までに271名の学生が留学を経験しています。1セメスターの長期留学、留学しても2年間で卒業が可能で、留学前と後のTOEICを活用した自己診断、現地教員との連携、ホームステイによる英語漬けの環境構築といった特色を有する留学制度であり、現地で修得した15単位はすべて卒業要件単位として認定。令和5年度からの再開に向けて準備を行った。

##### ③社会貢献・連携活動の概要

辰野町沢底区と「地域連携協定」を締結し、以後学生及び教員の派遣、また本学の授業を沢底区との協力のもとに実施。「伝統文化」を開放科目として開講。残念ながらコロナウイルス感染症の影響もあり、行われないものも数多くあった。

社会人受け入れにも積極的に取り組み、科目等履修生の説明会を開催し、短期大学の持つ情報を地域のみなさんに提供するとともに、科目等履修生としての学びにつながっている。

上記についてはコロナウイルス感染症との兼ね合いで令和4年度は十分に行うことができなかった。令和5年度以降は、國の方針も変更になることから徐々に徐々に活動を活発化していくと考えている。

# 豊南高等学校

## I 当該年度の主な事業の概要

### 1. 事業の主な目的・計画

#### (1) 教育等の充実

①新指導要領に対応したカリキュラムをスタート

「探究」の内容、評価の策定。観点別評価の策定。

#### ②教員研修の実施

・学務部企画による教員の授業力アップのための授業見学の策定と実施。

#### ③学習方法の多様化に応える

・スタディー・ラボの活用について

自学自習の定着を図ることを目的とする。

授業内容の定着を図る。

授業での「伸びこぼし」「落ちこぼれ」を極力防ぐため、そのレベルに対応するシステムとして活用する。

スタディー・ラボ提携業者、入札により変更。今まで以上に連携を深める。

#### ④GIGAスクール構想に基づく校内 LAN や ICT 環境の整備

・電子黒板、プロジェクターの導入による、授業の効率化等の検証。

・ほぼ全教室に電子黒板の設置完了。

・令和 5 年度より一人一台パソコン導入の準備。

#### ⑤特進コースの充実

・特進、選抜両コースについて、募集状況・進学実績・外部環境要因などを加味し、基準の見直し、コース再編を令和 4 年度以降 2~3 年かけて検討していく。

#### (2) 生徒募集

①全校生徒数 960 名の安定的確保を図る。

②引き継ぎ、学習塾組織、中学校、その他協力者との信頼関係を一層強固なものにする。

③学校ホームページの充実を図る。

④特待Ⅲを活用した募集活動による単願志願者、学力上位者の確保

#### (3) 運営管理及び設備投資

①第一校舎の大改修に向けての年次計画の策定。

・LED 照明化は見送った。

・防犯カメラの設置は見送った。

・下駄箱の交換を一部実施した。

・音楽室の移設完了。

・生徒数の増加と選択授業用教室の充実を図るために、第二グラウンド内に、第三校舎を建設。  
完了した。(4 教室増加)

#### ②教員採用の強化

・常勤講師制度を制度化。

#### ③強化指定クラブを中心とした部活動の活性化

#### ④志木の総合グラウンドの台風 19 号被害からの復帰工事およびその活用

- ・苦情の対象となっている運動部の活動場所として志木総合グラウンドを利用し、硬式野球部とサッカーチームについては、活動を原則志木総合グラウンドで行うこととした。

#### ⑤働き方改革

- ・部活動の複数顧問制、通学路指導、生徒下校後の校舎警備施錠については、可能なものから順次行っている。

- ・年間変形労働時間制の検討<令和6年度実施に向けて>

#### ⑥特待制度の検証

- ⑦生徒指導力のアップを図り、転退学者の減少を目指す。

- ・H29(34名) H30(20名) R1(10名) R2(12名) R3(35名) R4(36名)

※コロナの影響で3~4年は退学者数に影響があると予測している。

#### ⑧授業料値上げの検討

<令和5年度入学生より値上げ準備の検討>

<参考>・H23に36万円から42万円に値上げ。

- ・R2年度より授業料軽減額として上限456,000円支給される対象を、世帯収入760万円から910万円に引き上げ。

#### ⑨近隣住民と良好な関係の構築

- ・交流会の実施など。

### (4) 組織連携の強化

- ①法人本部と連携し、学納金および経費予算管理の徹底化を図る。

- ②校務システムを利用した証明書等の発行手続きの簡略化

## II 教育の概要

### 1. コースに関する情報

当校では以下の3つのコースを設けております。

#### ・特進コース

放課後講習、ハイレベルな進学講習など、充実した学習量となっています。国公立大学、難関私立大学進学を目指すコースで、高い目標を達成できるカリキュラムが組まれています。

#### ・選抜コース

課外活動にも力を注ぎながら勉学に励むコースです。中堅、難関大学進学を目指します。学習とクラブ活動や生徒会活動を積極的に両立させ、学校の中核として活躍したいという意欲を持つ生徒のためのコースです。

#### ・進学コース

学校生活を楽しみながら学力を着実に積み上げるコースです。第一志望校への進学を実現することを目指しています。四ターム制のもとで、学習にもクラブ活動にも十分な時間が確保され、元気いっぱいの学校生活を過ごすことができます。きめ細やかな指導方針で生徒一人ひとりの面倒をじっくりとみることができる態勢を整えています。

### 2. 生徒に関する情報

#### ・在籍生徒数（令和4年5月1日現在）

1年生 405名 2年生 328名 3年生 315名 合計 1048名

#### ・令和4年度卒業生の進学実績

四年制大学への現役合格率は5年連続70%を超えており、令和4年度卒業生は、81%。

今後は、国公立大学、難関私立大学を始めとする上位校といわれる大学にもたくさんの合格者を出すことを目標としていきます。

### 3. 学習環境に関する情報

- 校舎は東京都豊島区高松の閑静な住宅地の中にあります。恵まれた静かな環境の中で生徒たちは勉強に励んでいます。  
また、埼玉県志木には総合グランドがあり、主に課外活動等に利用されています。
- 夏の海外語学研修・冬の短期留学制度により、語学学習のモチベーションアップ、国際理解、自己啓発を図っています。

### 4. 入学時納付金・授業料等納付金に関する情報

- 入学時納付金

令和4年度	
入学金	240,000円
施設拡充費	100,000円
P T A入会金	5,000円
合 計	345,000円

- 授業料等納付金

令和4年度		
種目	年額	1期分
授業料	420,000円	105,000円
施設補修費	72,000円	18,000円
旅行積立金	62,000円	15,500円
副教材等諸費	116,000円	29,000円
P T A会費	15,600円	3,900円
生徒会費	9,600円	9,600円
口座振替手数料	800円	800円
合 計	696,000円	193,500円

\* 就学支援金控除前の金額を表示しています。

## 豊南幼稚園

### I 当該年度の主な事業の概要および進捗状況

#### 1. 事業の主な目的・計画

- ・ 楽しい幼稚園生活の中で、日常の生活習慣を養い、丈夫で明るい子、自立心のある意欲的な子を育てます。
- ・ のびのびと遊びを通した総合的教育の中で多くを体験し、また一人ひとりの個性を大切に育てます。
- ・ 地域の児童保育ニーズに対応していく幼稚園を目指します。

#### 2. 進捗状況

- ・ 2歳児教室開催や、授業時間外の預かり保育なども行い、園児が楽しく幼稚園生活がおくれるよう努めています。
- ・ 行事の開催もコロナ前の状態に近付けるべく準備いたします。  
こどもの日、七夕祭り、夏の日の集い（露店ごっこ）など、季節の行事に加え、地域の公共・文化施設を中心とした「園外保育」やお誕生会を毎月実施・園児たちが楽しめる内容にしています。
- ・ 保育の一環として外部から専門教師を招き、週1回体操指導、月2回リトミック指導を行なっています。
- ・

### II 教育の概要

#### 1. コースについて

- ・ 年少（3歳児）、年中（4歳児）、年長（5歳児）の学年別保育を実施しています。
- ・ 尚、2歳児教室を開催し、チケット保育生活を体験できるようにしています。

#### 2. 園児に関する情報

- ・ 在籍園児数（令和4年5月1日現在）  
年少（3歳児） 11名 年中（4歳児） 14名 年長（5歳児） 17名 計 42名

#### 3. 保育環境に関する情報

- ・ 豊島区高松の豊南高等学校の敷地の中にあります。  
広いグランドやホールなど思いっきり遊べる環境が準備されています。
- ・ 安全な環境・明るい保育室となっています。  
高等学校と一体化した警備保安システムが完備しています。明るい保育室とあいまって、園児が安心してのびのび過ごせる環境となっています。

#### 4. 入園時納付金・保育料に関する情報

##### ・ 入園時納付金

入園料 100,000円

施設拡充費 30,000円 計 130,000円

##### ・ 月間保育料等

保育料 22,000円

母の会費 1,000円 諸費用 1,500円 冷暖房費 1,500円

施設維持費 3,000円（平成28年度以降の入園者） 計 29,000円

※年度初めに口座振替手数料800円を上記と合わせ徴求しております。

### III. 財務の概要

#### (1) 資金収支計算書

「資金収支計算書」は、毎会計年度、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該年度における支払資金の収入及び支出のてん末を明らかにするものです。

令和4年度末の翌年度繰越支払資金は547百万円となり、前年比243百万円増加しております。

#### 資金収支計算書

(単位:千円)

収入の部				
科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
学生生徒等納付金収入	724,341	712,720	769,756	57,036
手数料収入	25,509	27,635	30,071	2,436
寄付金収入	745	10,764	6,566	▲4,198
補助金収入	498,566	489,674	560,532	70,858
資産売却収入	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	9,059	12,824	16,077	3,253
受取利息・配当金収入	1,817	1,070	835	▲235
雑収入	18,899	76,111	8,144	▲67,967
借入金等収入	500	250	1,250	1,000
前受金収入	140,350	159,085	161,795	2,710
その他の収入	2,763,248	2,711,946	2,348,400	▲363,546
資金収入調整勘定	▲302,653	▲311,354	▲260,608	50,746
前年度繰越支払資金	190,473	247,804	304,557	56,753
収入の部合計	4,070,859	4,138,531	3,947,379	▲191,152
支出の部				
科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
人件費支出	866,115	944,673	857,643	▲87,030
教育研究経費支出	298,418	342,798	262,239	▲80,559
管理経費支出	84,186	85,645	89,883	4,238
借入金等利息支出	3,552	3,336	3,120	▲216
借入金等返済支出	54,304	56,304	54,554	▲1,750
施設関係支出	4,345	59,010	31,306	▲27,704
設備関係支出	36,771	35,482	40,368	4,886

資産運用支出	1,812,000	1,656,000	1,196,000	▲460,000
その他の支出	732,024	772,643	937,972	165,329
資金支出調整勘定	▲68,664	▲121,919	▲73,537	48,382
翌年度繰越支払資金	247,804	304,557	547,828	243,271
支出の部合計	4,070,859	4,138,531	3,947,379	▲191,152

(千円未満は切り捨てて表示しております。)

## (2) 事業活動収支計算書

「事業活動収支計算書」は、毎会計年度、当該会計年度の教育活動、教育活動以外の経常的な活動、それ以外の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容を明らかにするとともに、当該会計年度において基本金に組み入れる額を控除した当該会計年度の諸活動に対応する全ての事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにするものです。

教育活動収支については、教育活動収入が 1,382 百万円、教育活動支出が 1,352 百万円となり、教育活動収支差額が 29 百万円の収入超過となっております。

教育活動外収支差額が 2 百万円の支出超過、特別収支差額が 9 百万円の収入超過となっており、基本金組入前当年度収支差額は 36 百万円の収入超過となっております。

これに第 1 号基本金 80 百万円及び第 4 号基本金 5 百万円を組入れ、当年度収支差額は 48 百万円の支出超となり、前年度繰越収支差額が 2,447 百万円の支出超過であることから、翌年度繰越収支差額は 2,496 百万円の支出超過となっております。

## 事 業 活 動 収 支 計 算 書

(単位:千円)

教育活動 収支	事業活動収入の部	科 目	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	前年度比
		学生生徒等納付金	724,341	712,720	769,756	57,036
		手数料	25,509	27,635	30,071	2,436
		寄付金	745	2,764	1,566	▲1,198
		経常費等補助金	498,566	479,674	556,368	76,694
		付随事業収入	9,059	12,824	16,077	3,253
		雑収入	28,556	77,422	9,089	▲68,333
		教育活動収入 計	1,286,779	1,313,040	1,382,930	69,890

教育活動収支	事業活動支出の部	科 目	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	前年度比	
		人件費	866,115	944,673	857,643	▲87,030	
		教育研究経費	421,305	468,722	394,398	▲74,324	
		管理経費	93,995	93,872	100,440	6,568	
		徴収不能額等	9,993	3,509	485	▲3,024	
		教育活動支出 計	1,391,409	1,510,777	1,352,967	▲157,810	
教育活動収支差額			▲104,630	▲197,736	29,962	227,698	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	前年度比	
		受取利息・配当金	1,817	1,070	835	▲235	
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	
		教育活動外収入 計	1,817	1,070	835	▲235	
	事業活動支出の部	科 目	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	前年度比	
		借入金等利息	3,552	3,336	3,120	▲216	
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	
教育活動外支出 計			3,552	3,336	3,120	▲216	
教育活動外収支差額			▲1,734	▲2,266	▲2,284	▲18	
経常収支差額			▲106,365	▲200,003	27,678	227,681	
特別収支	事業活動収入の部	科 目	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	前年度比	
		資産売却差額	0	0	0	0	
		その他の特別収入	95	18,060	9,172	▲8,888	
		特別収入 計	95	18,060	9,172	▲8,888	
	事業活動支出の部	科 目	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	前年度比	
		資産処分差額	1,682	0	0	0	
		その他の特別支出	16,626	2,374	0	▲2,374	
		特別支出 計	18,309	2,374	0	▲2,374	
特別収支差額			▲18,213	15,686	9,172	▲6,514	

基本金組入前当年度収支差額	▲124,579	▲184,317	36,850	221,167
基本金組入額合計	▲48,152	▲112,537	▲85,392	27,145
当年度収支差額	▲172,731	▲296,854	▲48,541	248,313
前年度繰越収支差額	▲1,978,368	▲2,151,100	▲2,447,955	▲296,855
基本金取崩額	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額	▲2,151,100	▲2,447,955	▲2,496,497	▲48,542

(千円未満は切り捨てて表示しております。)

### (3) 貸借対照表

「貸借対照表」は、年度末における財政状態を表示したもので、資産・負債・純資産を表示しています。

資産の部については 8,489 百万円となり、対前年比 89 百万円の減少となっています。  
これは、固定資産の減少 269 百万円と流動資産の増加 180 百万円が要因です。

負債の部については 1,156 百万円となり、対前年比 125 百万円の減少となっています。  
これは、固定負債の減少 62 百万円と流動負債の減少 63 百万円が要因です。

純資産の部については、7,332 百万円となり、対前年比 36 百万円の増加となっています。  
これは、第 1 号基本金の増加 80 百万円及び第 4 号基本金の増加 5 百万円と翌年度繰越収支差額の減少 48 百万円が要因です。

貸 借 対 照 表

(単位:千円)

資産の部				
科 目	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	前年度比
固定資産	8,450,108	8,178,452	7,908,744	▲ 269,708
有形固定資産	6,526,825	6,485,164	6,414,609	▲ 70,555
特定資産	1,701,000	1,496,000	1,296,000	▲ 200,000
その他の固定資産	222,282	197,287	198,135	848
流動資産	331,793	399,665	580,318	180,653
資産の部合計	8,781,902	8,578,118	8,489,062	▲ 89,056

負債の部				
科 目	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	前年度比
固定負債	990,170	900,333	837,757	▲ 62,576
流動負債	311,393	381,763	318,432	▲63,331
負債の部合計	1,301,563	1,282,097	1,156,190	▲ 125,907
基本金の部				
科 目	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	前年度比
基本金	9,631,438	9,743,976	9,829,369	85,393
第1号基本金	9,537,765	9,640,976	9,721,369	80,393
第4号基本金	93,672	103,000	108,000	5,000
繰越収支差額	▲2,151,100	▲2,447,955	▲2,496,497	▲48,542
純資産の部合計	7,480,338	7,296,021	7,332,872	36,851
負債及び純資産の部合計	8,781,902	8,578,118	8,489,062	▲89,056

(千円未満は切り捨てて表示しております。)

#### <IV>対処すべき課題

本学校法人豊南学園を取り巻く環境は依然厳しい状況が続いています。当学園全体での最大の課題は財務内容の健全性です。その健全性を実現するには、学生・生徒等の増加が必須です。実現させるには、①学生・生徒等から支持され質の高い教育、②短大においては就職実績の向上と就職内容の更なる充実、③高校では難関といわれる大学への進学実績を向上させると同時に、クラブ活動の推進、④幼稚園では、地元ニーズに応える保育の提供実現が必要と考えます。

##### (1) 信州豊南短期大学

本学校法人豊南学園を取り巻く環境は依然厳しい状況が続いています。当学園全体での最大の課題は財務内容の健全性です。その健全性を実現するには、学生・生徒等の増加が必須です。実現させるには、①学生・生徒等から支持され質の高い教育、②短大においては就職実績の向上と就職内容の更なる充実、③高校では難関といわれる大学への進学実績を向上させると同時に、クラブ活動の推進、④幼稚園では、地元ニーズに応える保育の提供実現が必要と考えます。

##### (1) 信州豊南短期大学

コロナウイルス感染症の状況をにらみながらの募集活動となり、苦戦を強いられたが、この点についてはどうちらの学校も同様の状況出る。だからこそ切り替えやそれを踏まえた試みが不足していた点は否めない。言語コミュニケーション学科においては昨前年度に入学者を回復することができたが本年度はやや減少してしまった。またさらなる入学者増を計画していた幼児教育学科は志願者入学者とも前年と変わらない数字となった。

言語コミュニケーション学科のオープンキャンパス参加者や接触者は前年に比べて12%程度減少した。そのうち直接の受験対象者となる3年生の参加者も同様の結果となった。ただしこれらは延べの数字となっており、重複者ではなく絶対数で確認すると3年生の参加者数は前年度と変わらない。

オープンキャンパス等に参加した受験対象者（3年生等）のうち受験しなかった学生が令和3年度は前年度に比較して13%増加した。言語コミュニケーション学科は17%増、幼児教育学科は7%増となっている。ここから言えることはオープンキャンパスへの参加者で例年同様の受験者を確保した場合、言語コミュニケーション学科はかなり定員に近づくことができる。

またリクルートの詳細な調査によれば本学の現在の高校3年生における2年次の資料請求者が例年になく多いとの情報もあり、ここで受験者を追あげる必要があると考え得ている。

幼児教育学科ではオープンキャンパスへの参加者が前年に比較してやや減少した。このことによる不安もあったが、結果は前年とほぼ同数の入学者となってしまった。

高校訪問等も人の動きを減らすことが重要となっていることから十分な活動ができなかつたこと、またオンラインでのイベント等の開催にすぐに対応することができなかつたことなども編成すべき点と考えている。

いずれにしても来学者のうち受験に足らなかつた者が増加したことがマイナスの要因であり、この反省をもとに来学者を入学者に変えるための試みが必要になる。

令和3年度学生募集では入試制度大きく変更になり、入学試験の実施時期がこれまでとは異なり、それらへの対応が十分ではなかつたこともある。国の新たな修学支援制度スタートの年で給付型の奨学金と授業料減免を同時に受けることが可能になったことから、これまで経済的に進学が難しい学生がこの制度に後押しされた部分もあり言語コミュニケーション学科の入学者増につながっていると考えられる。いずれにしても受験生に選ばれる学校にならなければならないことから、カリキュラム、授業内容等様々な面の魅力アップに努めていくことが急務である。そのうえで長野県内、

特に中信地区の募集強化を検討していきたい。

一方で幼児教育学科の募集は厳しいものがあり、今後も対策を検討し、急いで対応していく必要があると考えている。

コロナ禍の中で授業を運営していくだけでもこれまでにない大変さが付きまとつたわけだが、加えて遅れている学生募集、広報活動面では対応が極めて難しい状態となつた。これまでの方法の見直しが迫られている。令和4年度はこれまでの経験を活かして、前年を上回る成果を上げるべく努力していきたいと考えている。

## （2）豊南高等学校

従来から種々の改革に取り組んでいますが、目標にはまだ届いておりません。進学実績の向上、クラブ活動の活性化を更に推進していく必要があります。

財務面では、①収支の均衡を図ることで経営基盤を安定させる。②教育内容の充実を図る。以上2つを目的に財務内容の見直しに着手してまいりました。

令和元年度入学生が265名（前年比-45名）、令和2年度入学生が339名（前年比+74名）、令和3年度入学生が345名（前年比+6名）令和4年度入学生が407名（前年比+62名）となり回復傾向にあります。また、単願者数の推移は、令和元年度入学生が92名（前年比-22名）、令和2年度入学生が134名（前年比+42名）、令和3年度入学生が178名（前年比+44名）、令和4年度入学生が192名（前年比+14名）となり、進学実績の向上と共に、部活動の活性化が受験生に伝わってきていると考えます。しかしながら、より教育内容の充実を図り、成果に結びつけ、安定的に生徒数を確保するために具体的な方策を講じ、実行しなければならないと考えます。

生徒の学習習慣の確立、授業内容の定着を図るための具体策として、リゾー教育グループ、スクールトーマスと提携をし、生徒の放課後学習支援システムを構築してまいりました。部活動参加者も活動終了後1時間～2時間、学校内で学習を完結して下校するという制度です。このスクールトーマスとの提携により、今後、教員の働き方改革の推進、労働時間の短縮の方策の具体化にもつながり、更に生徒の文武両道の推進も図れると考えています。なおスクールトーマスとの提携も三年目を迎えていたので、令和4年度以降さらなるレベルアップを図るため、新たな提携先を模索し、入札により令和4年度以降は城南進学研究社と提携することとしました。

また、本校の校地である志木総合グラウンドが一昨年の台風被害を受け、水没したのを機に、全面改修工事を行い、授業と部活動に安心して使えるよう整備を始めました。遠隔授業の規制が緩和されたこともあり、発展的に利用できるよう、引き続き検討し、整備を続けてまいります。

併せて、21世紀の社会で活躍できる人材を育成するため、授業内容・教授方法の見直し等、新学習指導要領に則した教育内容の検討に入りました。それに伴うICT化を進め、令和5年度の生徒一人一台の端末導入に向け、令和4年度は準備がほぼ整いました。新カリキュラムの「探究」の中身を特色の一つに加えて、5年の間に、次に向けて安定的に支持される学校の土台を築きたいと考えています。

## （3）豊南幼稚園

令和元年度24名、令和2年度18名、令和3年度15名、令和4年度11名と入園園児数の減少が更に進んでいる状況である。3歳入園児の安定的な確保の為、例年就学前保育として募集している2歳児「ひよこ組」の募集人員確保を図っているが、20名募集に対して半数程度の確保にとどまっている状況である。「ひよこ組」の募集時期前倒しを含め、3歳児入園者の安定確保を目指して活動してまいりましたところ、本年度の「ひよこ組」は、ここ数年より多い在籍があり、令和5年度の入園

園児確保に結び付けるよう活動いたしました。また、コロナ禍での園活動は、各種行事の一斉中止の令和2・3年度より、更に多くの活動行事の開催が可能となり、運動会もコロナ前と同様に家族を迎えて入れての開催等、徐々にコロナ前の状態に戻すべく、感染に注意を払い、活動範囲を広げている状況です。